

# 中国百科検定ニュース

2025 7.1 NO. 17・18-12

日本中国友好協会中国百科検定委員会

東京都台東区浅草橋5-2-3鈴和ビル5階

☎03-5839-2140 FAX03-5839-2141

E-mail: nicchu@jcfa-net.gr.jp

## 受験日には受験者懇談会の準備をお願いします

いよいよ今週末が一般会場の受験日となりました。今年是一般会場にも学生の受験者が増えていますので、彼らとの絆を深めるための受験者交流会が非常に重要になっています。ご準備のほど、よろしくお願いします。

### 多摩大附属聖ヶ丘中高は 6月28日に試験を実施

各地の準会場は一定の制限のもとで一週間前からの実施が認められており、多摩大附属聖ヶ丘中高は6月28日に都連検定委員の補助のもとに試験を実施しました。教員の方1名が初級を受験の他、3級5人、2級4人の合計10名が受験し、受験料を受け取ってきました。

この多摩大附属は過去に2名の先生も受験をされましたが、それに加えて新しい若い先生が受験されたのは嬉しいことです。その方は本部の大西副理事長の授業を聞き、そこでも百科検定の宣伝をされていたということも興味深いです。検定の宣伝はこうして何年も後に効いてくることがあるということです。

なお、過去に受験・アレンジをしてくださった2人の先生も試験の開始と終了を見届けるなど熱心でした。そのテスト会場の写真を貼り付けます。



### 協会沖縄青年訪中団が新聞記事に

沖縄では昨年初めて検定試験が実施されましたが、そこでの成績優秀者と新規に琉球大学などから募集した学生併せて20名を中国に派遣しています。すでに福州を訪問。その後北京に入って北京外国語大学などでの交流をしています。6月26日に那覇空港を出た際の写真を含む次のような記事が『琉球新報』に出ています。百科検定を含め、我々の活動が広く県民の関心を呼んでいることが分かります。12月に琉球大学で予定している試験の受験者増につながることを強く期待します。



### 県内大学生、招待受け福建省訪問

日中友好協主催 琉球関連の施設見学も

県内の大学・大学院生20人が中日友好協会の招待を受けて、26日から沖縄県大学生代表団として福建省福州市を訪問している。6月7日の日程で、現地大学生との交流や文化施設などを視察する。同日、那覇空港で出発式があり、「中国で学んだことを沖縄で伝えたい」との抱負を述べた。中日友好協会はコロナ禍をのぞき、毎年、日本の大学・院生を日本青年代表団として、中国に招待しており、昨年10月に中国に派遣された代表団には県内からも2人の学生が参加した。今回の代表団は特別枠で沖縄の学生のみ招待された。沖縄代表団は日本青年代表団と同様に、同協会が主催する中国百科検定の成績上位者らで構成している。今回の訪問では、福州市長楽区にある長樂梅花中流文化館や久米三十六姓の廟氏の子孫で福州に

県内の大学・大学院生20人が中日友好協会の招待を受けて、26日から沖縄県大学生代表団として福建省福州市を訪問している。6月7日の日程で、現地大学生との交流や文化施設などを視察する。同日、那覇空港で出発式があり、「中国で学んだことを沖縄で伝えたい」との抱負を述べた。中日友好協会はコロナ禍をのぞき、毎年、日本の大学・院生を日本青年代表団として、中国に招待しており、昨年10月に中国に派遣された代表団には県内からも2人の学生が参加した。今回の代表団は特別枠で沖縄の学生のみ招待された。沖縄代表団は日本青年代表団と同様に、同協会が主催する中国百科検定の成績上位者らで構成している。今回の訪問では、福州市長楽区にある長樂梅花中流文化館や久米三十六姓の廟氏の子孫で福州に

植物の技術などを伝えたとして信仰の対象となつて「蘇州人」廟などを回す。団長は琉球大学人文社会学部准教授の中村春樹さんで、「現地では中国語を話すよう心がけながら、日本との相違を見つけてほしい」と呼びかけた。同大琉球アジア文化学科4年次の新城まやさん(24)は「大学では琉球の歴史などを学んでいる。初めての中国だが、琉球王国を感じられる施設などを見学したい」と語った。出発式に参加した琉球大名督教授で日中友好協会沖縄県支部長の上里賢一さんは「日本人の対中感情は最悪となっているが、生の中国を自分の目で見て体で感じ取ってほしい。中国に対するイメージがすぐ変わることはないと思うが、考えるきっかけになると思う」と激励した。(宮田健一)